

余白 30mm

バイオメカニズム・シンポジウム原稿執筆要項

(1行あけ)

○山○夫^{1†}, □川□子², △田△雄³

(1行あけ)

¹○○大学, ²□□研究所, ³△△株式会社

(1行あけ)

要旨 本原稿では第20回バイオメカニズム・シンポジウム原稿の執筆要項について述べる。本シンポジウム原稿の書式は本学会学術講演会原稿や学会誌投稿論文原稿との書式の統一化のため、前回のシンポジウムより一部を改定している（和文要旨，キーワードの追加，英文要旨の書式の変更，電子投稿への対応化など）。そのため，過去に本シンポジウムに投稿経験のある方も，本執筆要項を必ず熟読されることをお勧めする。本シンポジウムの原稿は長文原稿（10ページが基本）であることが特徴であり，また，英文要旨の書式にも独自性があることなどに留意されたい。なお，この原稿作成法の原稿自身が本原稿作成要項に準拠している。

キーワード：長文原稿，和文・英文要旨，書式改定，電子投稿，締め切り厳守

(2行あけ)

10mm

18mm

1. はじめに

バイオメカニズムシンポジウムへの寄稿論文は，そのままオフセット印刷して予稿集として発行されます。下記の要項に従って執筆して下さい。

2. 論文原稿の作成要領

2.1 構成

(1) 書誌情報

- (i) 題名
- (ii) 著者名
- (iii) 著者所属名
- (iv) 和文要旨
- (v) キーワード

(2) 本文

- (3) 謝辞（ある場合のみ）
- (4) 参考文献
- (5) 連絡先
- (6) 付録（ある場合のみ）
- (7) 英文書誌情報

- (i) 英文題名
- (ii) 英文著者所属名

10mm

10mm

- (iii) 英文著者名
- (iv) 英文要旨
- (v) 英文キーワード
- (vi) 英文連絡先

2.2 原稿用紙

(1) 用紙サイズ

原稿は，A4サイズを縦長に用い，左横書き2段組とする。

(2) 原稿枚数

原稿の総ページ数は，10ページを基準とし，8ページと12ページの原稿も可とする。 奇数ページの原稿は受理しませんので注意して下さい。

(3) マージン

マージンは左18mm，右18mm，上30mm，下25mmとし，本文は縦2段組みとする。段組みの間隔は10mmとする。1ページ目の和文書誌情報，ならびに原稿末尾の英文書誌情報については，左右マージン25mmとし，段組しない。

(4) 本文の文字の種類と大きさ

文字は明朝体を用い，大きさは10.5ポイント程度とする。1ページの行数は40行前後，1行あたりの文字数は22文字程度となるように調整する。

2.3 書誌情報

25mm

(1) 表題

表題は1ページ目の第1行中央に、太ゴシック体、16ポイントの大ききで書く。

(2) 著者名

1行あけ、表題の下方中央に著者を列挙する。著者代表者(corresponding author)には†印をつけ、その連絡先を原稿末尾に記載する。所属が異なる著者名は、上付き番号^{1,2}をつけて区別する。書体は明朝体、12ポイント程度の大ききで書く。

(3) 著者所属名

1行あけ、さらにその下中央に所属名を記す。著者名に記した所属別番号^{1,2}に対応して所属名を区別する。書体は明朝体、12ポイント程度とする。

(4) 要旨(日本語)

1行あけ、著者所属名の下に和文要旨を記す。長さは300文字程度とする。書体は本文と同様(明朝体、10.5ポイント)

(補足：従来の書式では和文要旨がありませんでしたが、今回から加えることになりました)

(5) キーワード

要旨の下に5つ程度のキーワードをさらに記す。書体は本文と同様。次の本文との間に2行あける。

2.4 本文

(1) 章立てと見出し

本文は章、節、項に区切り、以下の体裁をとる。
章見出し：3行どり、ゴシック体、12ポイント程度、見出し番号は1., 2., …
節見出し：2行どり、ゴシック体、10.5ポイント程度、見出し番号は1.1, 1.2, …
項見出し：1行どり、明朝体、10.5ポイント程度、見出し番号は(1), (2), …

(2) 用語・単位・記号

漢字は常用漢字を用い、かなづかいなどは現代表記法に準拠すること。外国語、学術用語の用法に注意する。単位は、国際単位系(SI)とする。単位の記号は、[kg][mm]のように[]で囲む。電子原稿の場合、OSなどの機種依存性が高い文字・記号の利用は避ける。

(3) 句読点

句読点は、全角文字の『.』(ピリオド)と『、』(コンマ)を用いる。『。』『、』は用いない。

(4) 説明

本シンポジウムの特徴である「異分野融合」を踏まえ、専門領域以外の方にも理解しやすいように用語や説明に留意すること。

2.5 図表

(1) 図表中の文字

図表中の説明および図表題は、原則として日本語とする。

(2) 図番

図の番号は、図1, 図2・・・とする。表の番号は、表1, 表2・・・とする。図番は図題とともに図の下に書き、表番は表題とともに表の上に書く。

(3) 色調

図は白黒画像のみ。カラー画像は避ける(カラー画像も白黒印刷される)。濃淡をはっきりさせ、グレイスケールの利用も極力避ける。

2.6 数式

(1) 位置

数式は行に対して左寄せで書く。

(2) 式番

式番は、数式の右側に半角数字でふり、()で囲む。本文中で式を指示する場合には、式(1), 式(2) …とする。複数の式を同時に指示する場合には、式(1)(2)とする。

2.7 謝辞

謝辞がある場合には、本文の最後、参考文献リストの前に書く。

2.8 参考文献

(1) 番号

本文中の参考文献は、引用箇所の右肩に上付きで番号を¹⁾のように記入する。複数の文献を同時に指示する場合には^{1,2) 3~7)}のように記す。

(2) リスト

参考文献リストは、「参考文献」という見出しを

3行どりゴシック体で記した後、下記の書式に従って記載する。

(i) 雑誌

著者名: 表題, 雑誌名, 巻数(号), 頁-頁, (年).

(ii) 書籍

著者名: 書名, 頁-頁, 出版社, (発行年).

(iii) 編集書籍

著者名: 表題, 編集者名(編): 書名, 頁-頁, 出版社, (発行年).

(3) 参考文献例

- 1) 日本太郎, 石英硝子: 人工の手の機構と運動, バイオメカニズム学会誌, 2(1), 10-15, (1993).
- 2) Nihon, T. and Tokyo, J.: Biomechanics of joints, J. Biomechanisms, 3(1), 20-25, (1994).
- 3) 東京太郎: バイオメカニズム入門, 50-70, 日本出版, (1985).
- 4) 鳥居鎮夫: 衝動行動, 中村嘉太郎, 坂田英夫 (編): 脳の科学 II, 123-145, 朝倉書店, (2000).
- 5) Camuri, A., Morasso, P. and Zacca, R.: Dance and movement, In: Morasso, P., Garpzzp, N. and Tagliasco, V. (Eds): Human Movement Understanding, 85-124, North-Holland, (2002).

2.9 著者代表者連絡先

参考文献の後に、著者代表者の連絡先（住所、電話、FAX、E-mail）を記載する。

2.10 付録

付録がある場合、著者連絡先の後ろに記載する。

2.11 英文書誌情報

2段組を1段組に改めた後、英文書誌情報を記す。内容は和文書誌情報と同様な、表題、著者名、著者所属名、要旨、キーワード、著者代表者連絡先の各情報について英文で記す。マージンや段組みなどの体裁も原稿1ページ目の和文書誌情報の形式と同じとする。表題は各単語の先頭のみ大文字とする。著者名の姓は全て大文字とする。要旨の語数は200ワード程度とする。キーワードは5つ程度とし、各単語の先頭文字を大文字とする。

(補足: 従来の書式では英文書誌情報は独立した1ページに収めていましたが、今回から参考文献、著者連絡先の下に続けて記すように変更になりました。ワード数も少なくなっています)

3. 原稿の送付

3.1 締切

5月8日(火)必着。

3.2 送付方法

電子メールによる電子投稿と郵便による投稿を受け付けます。

(1) 電子投稿の場合

電子ファイルを下記のシンポジウム事務局メールアドレスへ電子メールの添付書類としてお送り下さい。

E-mail: sobim20@lasbim.taiiku.tsukuba.ac.jp

受け付けることができるファイル形式は:

Microsoft Word (Windows版) 形式ファイル

Adobe Acrobat PDF形式ファイル

の2種類のみです。書式レイアウトが崩れにくいPDF形式での送付をお勧めします。他の電子ファイル形式は受付できませんので、紙に印刷の上、紙原稿での投稿をお願い致します。

送付の際、ファイルサイズが大きくなり過ぎないようにご注意ください(2MB以下推奨)。また、PDFファイルに変換する際に条件によって図表の鮮明度が劣化しますので、ご注意ください。

(2) 紙原稿郵送の場合

原稿のページを、欄外右上に(ページ数/総ページ数)の形式で鉛筆にて記入してください。

送付部数は印刷用正原稿1部、コピー(査読用)3部、の合計4部を下記のシンポジウム事務局宛にお送り下さい。

